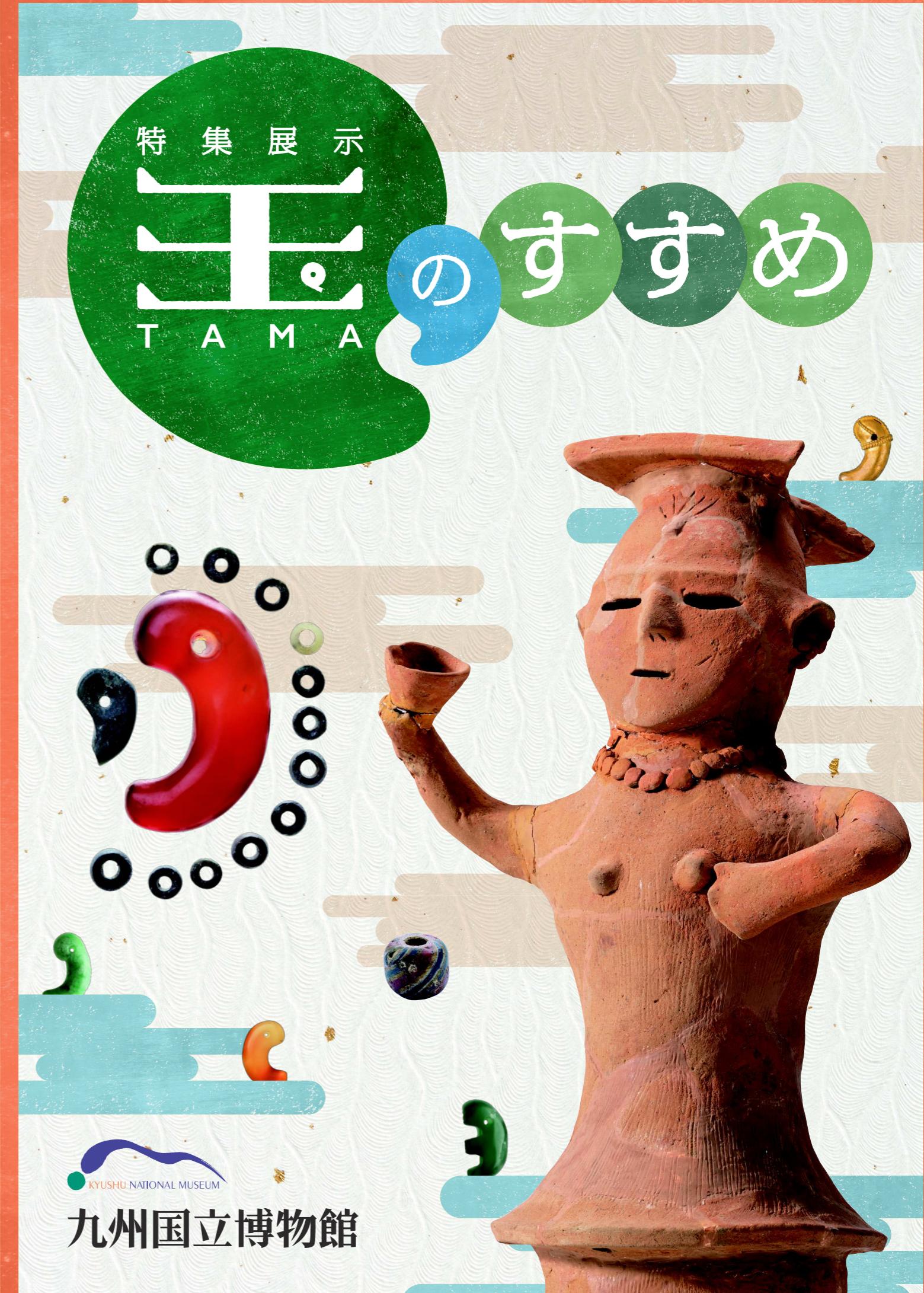


九州国立博物館 文化交流展
特集展示「玉—古代を彩る至宝—」リーフレット
『玉のすすめ』

発行日 平成31年(2019)1月1日
編集・発行 九州国立博物館・福岡県、古代歴史文化協議会
印刷・製本 株式会社西日本新聞印刷



古代史の流れを解明し、情報発信を進めます！

古代歴史文化協議会

日本各地には、すばらしい歴史文化遺産があります。これらの遺産の調査研究は、日々進んでいますが、地域ごとの成果にまとめられる場合が多く、広い地域の調査研究成果として発信される機会は少ないのが実情です。

そこで、個々の地域研究では見えにくかった古代史の流れを解明し、その成果を広く情報発信するために、古代歴史文化にゆかりの深い埼玉県、石川県、福井県、三重県、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、福岡県、佐賀県、宮崎県の14県が連携して、平成26年に「古代歴史文化協議会」を設立しました。

古代歴史文化協議会では、古代を考える上で重要な「古墳時代の玉類」を最初の研究テーマとしました。各県の研究担当者が3年半にわたって共同研究を進め、各県で蓄積されてきた研究成果を比較検討しました。その成果を、研究成果図書『玉—古代を彩る至宝—』(古代歴史文化協議会編)にまとめ、あわせて展覧会「玉—古代を彩る至宝—」を東京都江戸東京博物館と九州国立博物館で開催することで、ひろく情報発信を進めています。



玉は「古代の宝石」よ。
運びやすく高価な玉は、シルクロードも行き来した交易品。
古代史を解明するには、欠かせない研究素材のようね。

ハニヨリヒメ

古墳時代の玉類に詳しい埴輪の女の子で、『玉のすすめ』の解説員を務めます。
本日のファッショナーディネートは、「清楚系古墳な子」がコンセプト。

九州国立博物館1Fミュージアムショップで販売中よ。

最新の研究成果がまとめられているわ。

まさに“珠玉”的一冊ね。



『玉—古代を彩る至宝—』古代歴史文化協議会編

- 第1章 玉とは何か
- 第2章 玉作りの技術を探る
- 第3章 玉飾りの世界—玉の装い・流通・信仰を探る—
- 第4章 玉から古代日韓交流を探る
- 第5章 玉類のゆくえ

定価1,800円+税

特集
展示

玉 -古代を彩る至宝-

日本の玉を象徴する存在が勾玉である。

日本最古の歴史書である『古事記』・『日本書紀』にも、「勾玉」や「曲玉」の名で登場する。

大型獣の牙を素材にした装飾品は、概ね勾玉状の形になるため、類似した形状の玉が世界各地に存在する。日本の勾玉の起源も定かではなく、縄文時代にはさまざまな形の勾玉が見られる。

規格性の高い勾玉は弥生時代に出現し、古墳時代へ継承されていった。



うきくんれいせき せいまがたま すいしょく
宇木汲田遺跡 ヒスイ製勾玉・垂飾

弥生時代(紀元前2世紀-紀元後1世紀)

佐賀県立博物館

縄文時代の系譜を受け継ぐ多様な形の勾玉とともに、古墳時代に継承される規格化した勾玉(写真右上)も含む。



おくさい ごうふん へきぎょせいいまがたま
奥才34号墳 碧玉製勾玉
古墳時代前期(4世紀)
島根・松江市教育委員会



うえの ごうふん せいまがたま
上野1号墳 メノウ製勾玉
古墳時代前期(4世紀)
島根県埋蔵文化財調査センター



ろうじこふん せいまがたま へきぎょくせいくだま
老司古墳 ヒスイ製勾玉・碧玉製管玉
古墳時代中期(4世紀)
福岡市埋蔵文化財センター



しゃかのこしこふん きんせいいまがたま
車駕之古墳 金製勾玉
古墳時代中期(5世紀)
和歌山市教育委員会



さいとばる ごうふん せいまがたま せいこだま へきぎょくせいくだま
西都原111号墳 ガラス製勾玉・ガラス製小玉・碧玉製管玉
古墳時代中期(5世紀)
宮崎県立西都原考古博物館

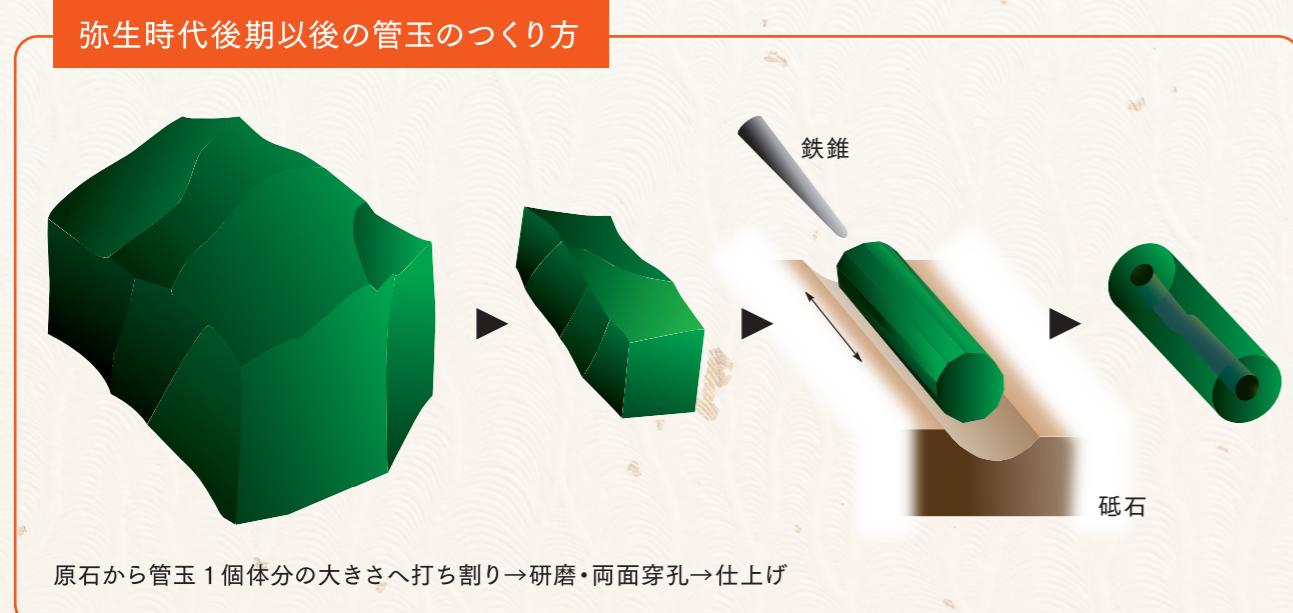
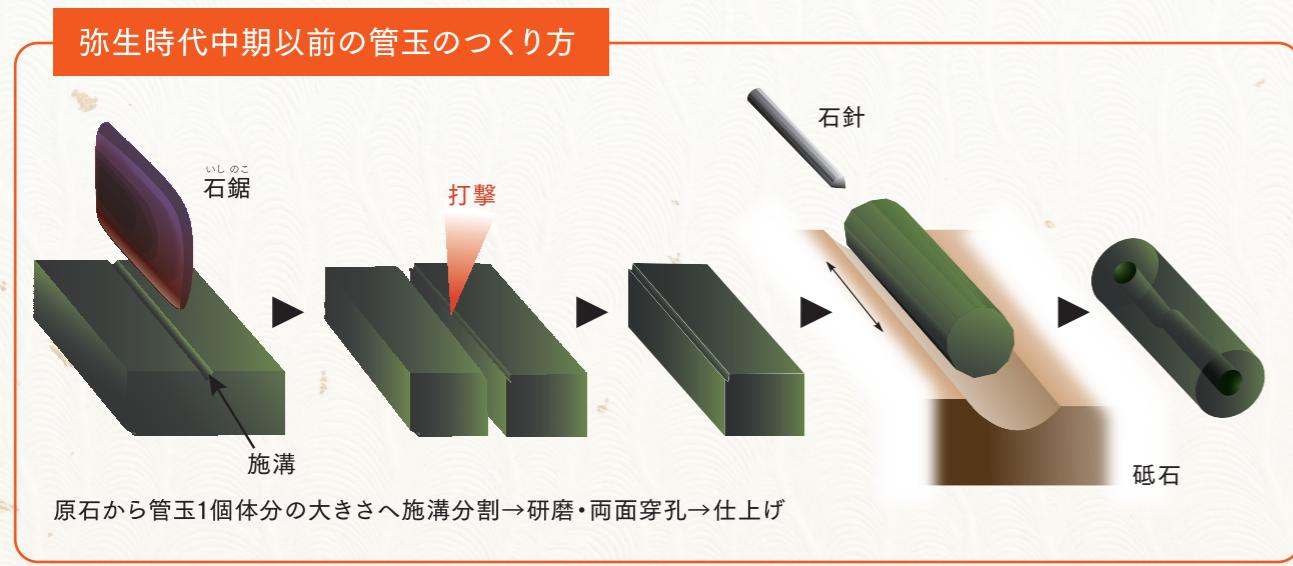
同じ古墳時代の勾玉でも、いろいろな素材があるよね。
緑色のヒスイや碧玉に、赤色・白色のメノウが加わり、さらには金属やガラスも素材に使用して、どんどん色彩豊かになったのよ。



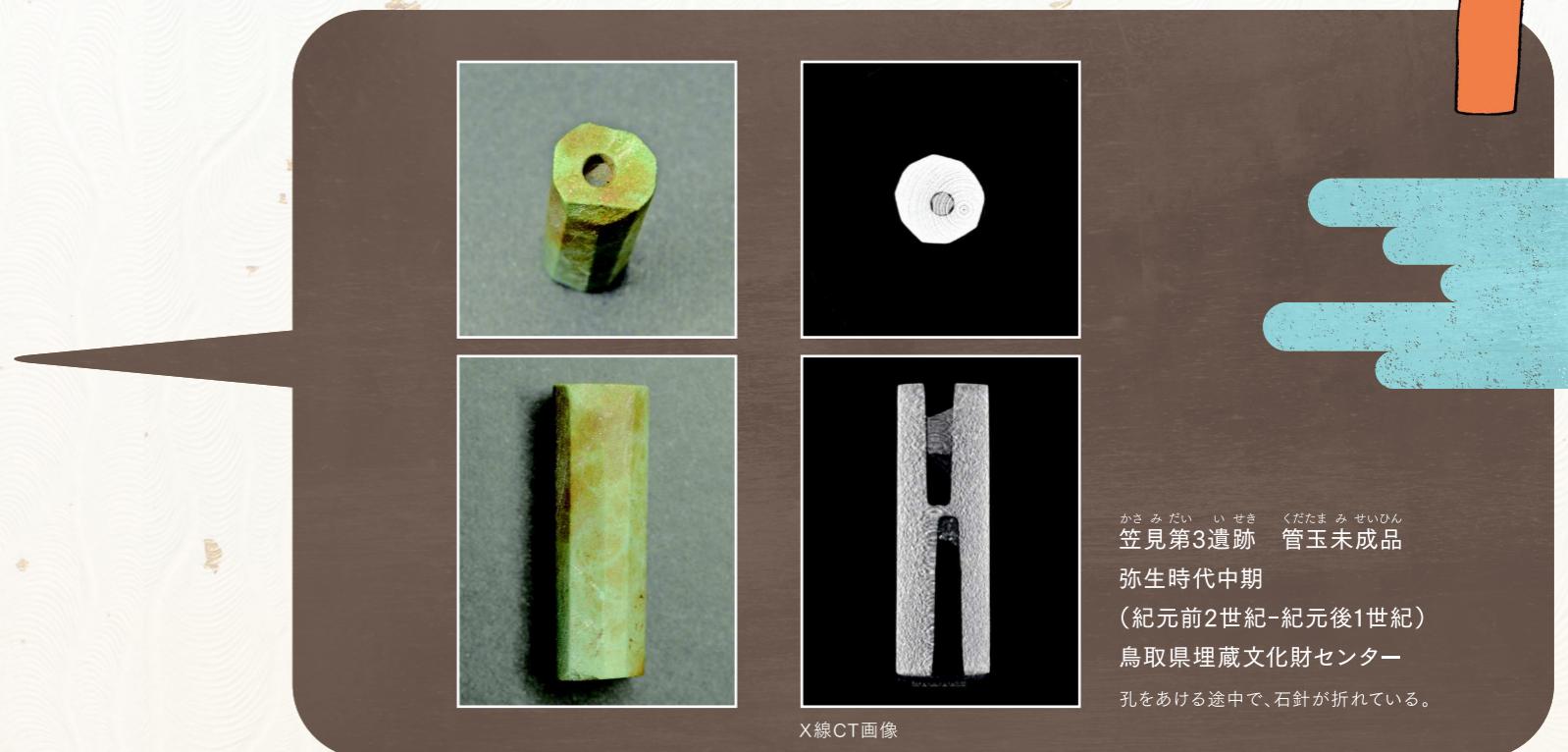
第1章 玉作りの世界

日本古代の玉は、主に石を素材としていた。硬い石を割り、孔をあけ、滑らかに研磨するには多大な労力と高い技術が必要とされる。玉に適した石材を産出する地域では玉作り技術が発達し、専門工房が組織され、玉の名産地となっていました。一方、玉はヤマト王権にとって重要な品であり、古墳時代の玉生産は権力の思惑によって大きく左右されていくこととなる。

管玉のつくり方



玉の定番カラーは緑色よ。
緑色の碧玉は日本海沿岸で
多く採れるけど、
珍しいヒスイは新潟県の
いといがわ糸魚川辺りでしか採れないわ。
透明度が高い緑色のヒスイは
高級品ね。



孔内部に穿孔具である鉄錐が残されている。

玉作りの変遷

良質で豊富な碧玉(緑色凝灰岩)を有する北陸は、古墳時代前期以前(4世紀以前)における列島随一の玉の名産地だった。4世紀後半には、関東や東北南部、中部高地にも玉作りが広がる。古墳時代中期(5世紀)には、ヤマト王権の中枢域にある曾我遺跡(奈良県)で専業の巨大工房が組織された。この巨大工房では、各地から玉作り工人と石材が集められた。その後、古墳時代後期(6世紀)になると、滑石製品を除く玉作りは出雲のみに集約されていった。

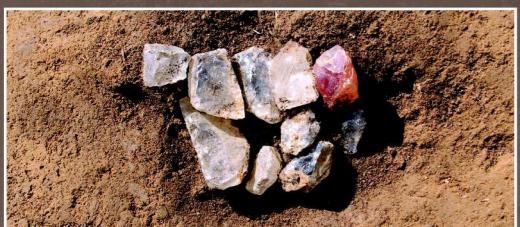


片山津玉造遺跡 玉作り関連資料

古墳時代前期(3-4世紀)

石川・加賀市教育委員会

北陸を代表する玉作り集落跡の一つ。玉類と同じ碧玉や緑色凝灰岩を用いて、腕輪形石製品も製作した。



参考画像

前原遺跡第2号住居跡 勾玉未成品出土状況

古墳時代前期(4世紀)

埼玉県立さきたま史跡の博物館

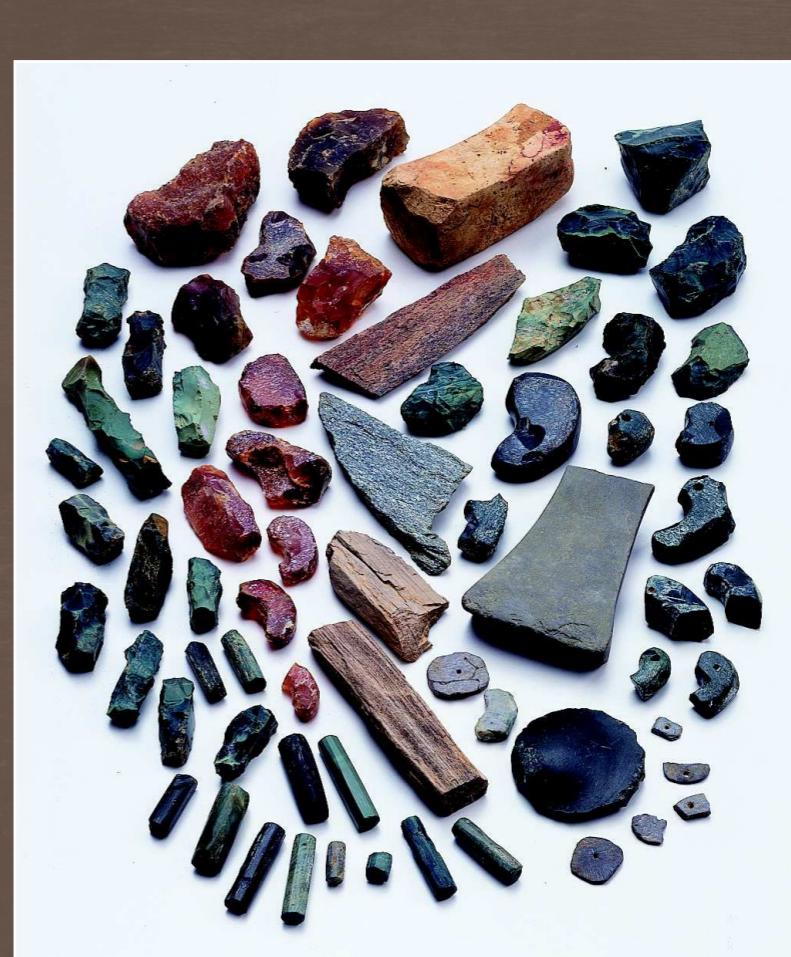
関東では4世紀に玉作り集落がひろく出現する。同遺跡では、製作途中の勾玉が集められた状態で出土した。



曾我遺跡 玉作り関連資料
古墳時代中期(5世紀)

奈良県立橿原考古学研究所

全国最大級の玉作り専業集落跡。膨大な量の玉生産がなされ、総重量約2.7トン、820万点もの関連遺物が出土した。



大原遺跡 玉作り関連資料
古墳時代中期(5世紀)

島根県埋蔵文化財調査センター

古墳時代中期を経て全国各地の玉作りは衰退する。しかし、出雲だけは古墳時代後期(6世紀)以後も玉作りを継続し、石材産地の花仙山周辺で工房が営まれた。



発掘された玉作り工房

出雲では、古墳時代を通じて玉生産がなされた。古墳時代中期(5世紀)の大原遺跡では、床面の形状が方形で一辺が約8mもある巨大工房が発掘された。この巨大工房をもとに復元した模型内部に、「出雲ブランド」の碧玉・メノウを用いた勾玉作りを再現した。



第2章 玉飾りの世界

古墳時代には、装身具や祭具に数多くの玉が利用された。古墳時代前期(3~4世紀)の玉飾りは、弥生時代以来の形状・素材・色調を踏襲し、緑色や青色を基調としていた。やがて、金属製玉類やトンボ玉・雁木玉等も加わり、古墳時代後期(6世紀)には多種多彩な玉飾りが登場した。古墳時代の玉飾りの具体的な姿は、未盗掘墳の出土状況や人物埴輪の玉飾り表現からうかがえる。



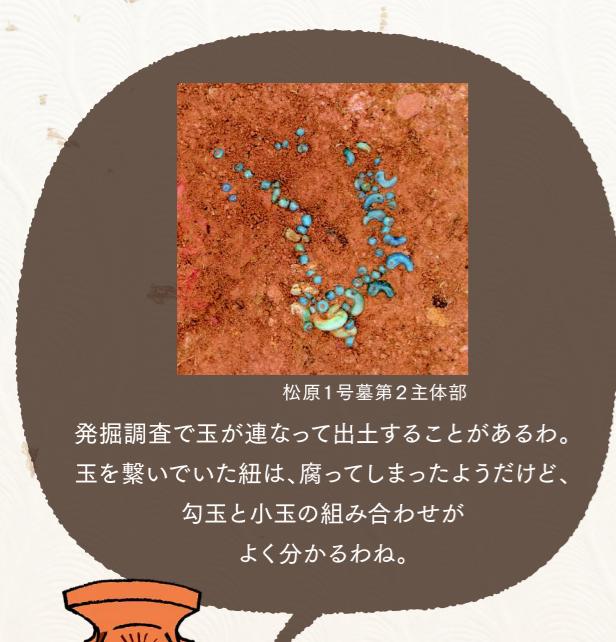
1. 弥生墳墓と玉

まつばら ごう ぼ だい しゅたい ぶ せいいたまるい
松原1号墳第2主体部 ガラス製玉類

弥生時代(2-3世紀)

鳥取市教育委員会

朝鮮半島よりもたらされたガラスを、日本列島内で二次加工した頸飾り。ガラス製勾玉と小玉から成る。



発掘調査で玉が連なって出土することがあるわ。
玉を繋いでいた紐は、腐ってしまったようだけど、
勾玉と小玉の組み合わせが
よく分かるわね。



2. 碧い玉への憧れ

【参考写真】

しもいけやま こ ふん たまるい うで わ がたせきせいひん
下池山古墳 玉類・腕輪形石製品

古墳時代前期(4世紀)

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

ヒスイ製勾玉、碧玉製管玉・ガラス製小玉の3種は、古墳時代の玉飾りの基本組成である。畿内中枢では腕輪形石製品が副葬品のアイテムに加わる。



4. 多彩な玉飾り

【参考写真】

あかおくずれたに ごうふん たまるい
赤尾崩谷1号墳 玉類

古墳時代中期(5世紀)

奈良・桜井市教育委員会

勾玉・管玉・小玉の組み合わせが踏襲される一方で、緑・黄・赤色のガラス玉やコハクを素材とした玉が加わり、玉飾りの彩りが一段と華やかになった。



5. 金色の時代

【参考写真】

ふじ の き こ ふん きんぞくせいたまるい
藤ノ木古墳 金属製玉類

古墳時代後期(6世紀)

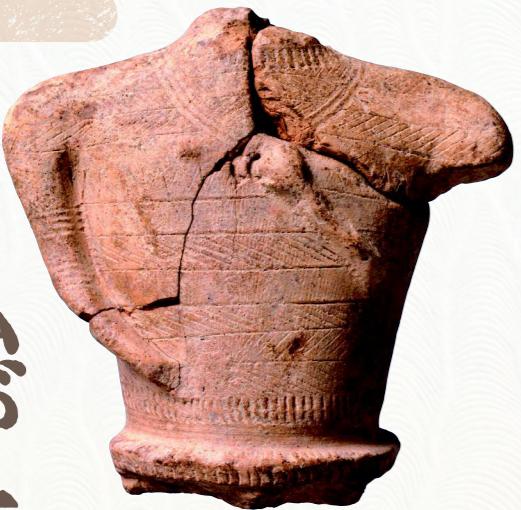
文化庁(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館保管)

6世紀には大刀や馬具と歩調をあわせるように、玉類でも金色や銀色に輝く金属製玉類が盛行した。

古代びとの装い

人物埴輪には、玉飾りを身につけた人々の姿が写し取られている。勾玉をふんだんに使った豪華な
頸飾りもあれば、丸玉のみで清楚に整えた頸飾りもある。さらには、頸飾りに加え、玉を連ねた手飾りや
耳飾りを装着する人もいる。玉は古代びとの装いを鮮やかに彩っていた。

私が元祖



たてつきふんきゅうぼ
楯築墳丘墓 人形土製品
弥生時代(2-3世紀)
岡山大学考古学研究室
勾玉の頸飾りを刻んだ日本最古の人形。

レディ 古墳時代の



でんさきたま こ ふんぐん じょ し がたはに わ
伝埼玉古墳群 女子形埴輪
古墳時代後期(6世紀)
埼玉・行田市教育委員会
玉飾りは、古墳時代の正装に取り入れられていた。

戦場でもオシャレ



でんさきたま こ ふんぐん ぶ じんがたはに わ
伝埼玉古墳群 武人形埴輪
古墳時代後期(6世紀)
埼玉・行田市教育委員会
甲冑を着込んだ上で、勾玉を連ねた頸
飾りを身に着ける。

働く女性の姿



いのまたみなみ ごうふん じょ し がたはに わ
猪俣南2号墳 女子形埴輪
古墳時代後期(6世紀)
埼玉・美里町教育委員会
頭に壺を載せる女性の胸元にも、頸飾り
が輝いていた。

フル装着 玉飾り



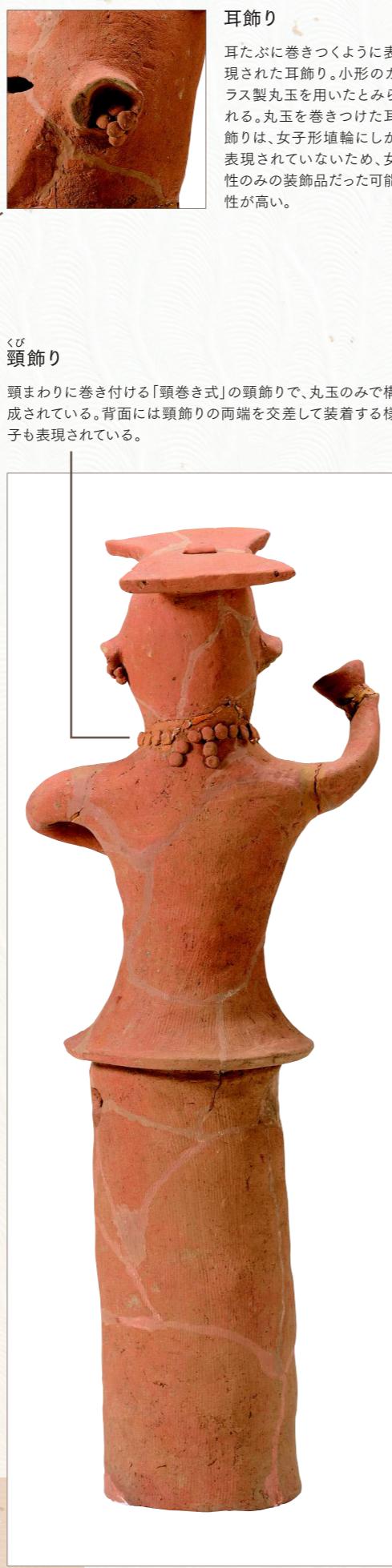
こ ふん じょ し がたはに わ
せきね古墳 女子形埴輪
古墳時代後期(6世紀)
埼玉・本庄市教育委員会
頸飾りに加えて、手首には2重の
手飾り、耳には耳飾りを装着。

祈りのときも



じょうこう ぼうだに ごうふん じょ し がたはに わ
常光坊谷4号墳 女子形埴輪
古墳時代中期(5世紀)
三重・松阪市教育委員会
儀礼に臨む姿にも、丸玉を連ねた頸飾
りが写されている。

ハニヨリヒメの
モデルになった
埴輪



神まつりと玉

古墳時代の玉類は、装飾品だけでなく祭具にも用いられた。水辺や孤島、山麓・山中の巨岩など、神が宿ると意識された場所から、玉類が出土する。古墳時代中期(5世紀)には、祭具に特化した滑石製玉類や子持勾玉が出現し、玉の神秘性が「形」として健在化する。



いずもおおやしきだい い せき たまるい
出雲大社境内遺跡 玉類
古墳時代中期(4-5世紀)
島根・出雲大社

出雲大社境内の中心部で、多量の土器とともに良質なメノウ製勾玉と蛇紋岩製勾玉、滑石製白玉が出土した。これらは境内での祭祀が古墳時代には始まっていたことを物語る。



玉は日本最古の歴史書『古事記』・『日本書紀』にも記されているよ。
アマテラスオオカミ スサノオノミコト うけい
その中には、天照大神と素戔鳴尊の誓約のような「神まつり」に関わる記述もあるわ。

イラストは素戔鳴尊が清水で玉飾りをすすぐ場面よ。



ハニヨリヒメ

第3章 海を渡る玉



伝大韓民国大邱廣域市内
三国時代・新羅(6世紀)
九州国立博物館

稀少なヒスイは最高級の宝石よ。
小さいので運びやすく、しかも高価。
交易には最適な品物だわ。
古墳時代には、鉄素材等の金属と
交換していたようね。

【参考写真】
皇南大塚北墳 金冠
三国時代・新羅(5世紀)
国立慶州博物館(韓国)

朝鮮半島の新羅王陵からは、多数のヒスイ製勾玉が出土している。現在、朝鮮半島でヒスイ産地は知られていないため、日本列島から運ばれたものと推測されている。

玉の生産と流通は、日本列島のみでは完結せず、海を越えてアジア諸地域とも繋がる。古墳時代に渡来した鍛冶や製陶などの新技術の中に、緻密な加工が求められる金属製玉類の製作技術も含まれていた。その一方で、日本列島から海を越えて朝鮮半島へと渡った玉も存在し、日韓における双方向的な物流がうかがえる。



天河石



古墳時代後期(6世紀)
福岡・九州歴史資料館

天河石は朝鮮半島南部に原産地がある。古墳時代の玉類にも、天河石製品が含まれることが新たに明らかになってきた。

多角形ガラス



古墳時代後期(6世紀)
福岡・宗像市教育委員会
多角形ガラス玉は朝鮮半島に複数の類例があり、九州にも交易でもたらされたとみられる。

赤メノウ



觀音山古墳群平石III群
赤メノウ製丸玉

古墳時代後期(6世紀)
福岡・九州歴史資料館

玉の表面を平滑に整えずに、素材の形状を残すことが特徴。このような赤メノウ製丸玉はアジア各地で流通していた。

多色ガラス



古墳時代後期(6世紀)
宮崎県立
西都原考古博物館

西アジアにルーツを持つガラス玉で、「雁木」はぎざぎざ文様の意、列島内ではわずか22点しか出土していない貴重品。

5世紀



新沢千塚126号墳出土
(直径0.82cm等)

6世紀

日本 新沢千塚126号墳(2)
韓国 皇南大塚98号墳北墳(3)
新德1号墳(2)

7世紀

※ 遺跡名に続くカッコ内は 雁木玉の点数

日本 錢亀塚(1)
深底古墳(1)
向畠1号墳(1)
こうしんのう2号墳(2)
岩田14号墳(1)
山崎山1号墳(1)
岩津2号墳(1)
船来山19号墳(2)
国久保古墳(1)
韓国 伏岩里3号墳4号櫛棺墓(1)

日本 諏訪前54号
円形周溝墓(1)

5世紀後半～6世紀前半



盛土山古墳出土
(直径0.35cm)

6世紀

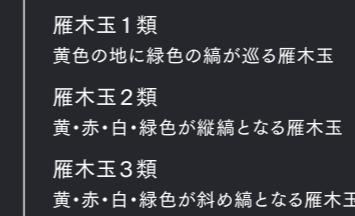
日本 盛土山古墳(1)
韓国 新徳1号墳(2)
新村里9号墳乙櫛棺(1)

7世紀

日本 錢亀塚(1)
深底古墳(1)
向畠1号墳(1)
こうしんのう2号墳(2)
岩田14号墳(1)
山崎山1号墳(1)
岩津2号墳(1)
船来山19号墳(2)
国久保古墳(1)
韓国 伏岩里3号墳4号櫛棺墓(1)

8世紀

日本 諏訪前54号
円形周溝墓(1)



6世紀中頃～7世紀前半

6世紀

7世紀

8世紀

日本列島と朝鮮半島における雁木玉の変遷





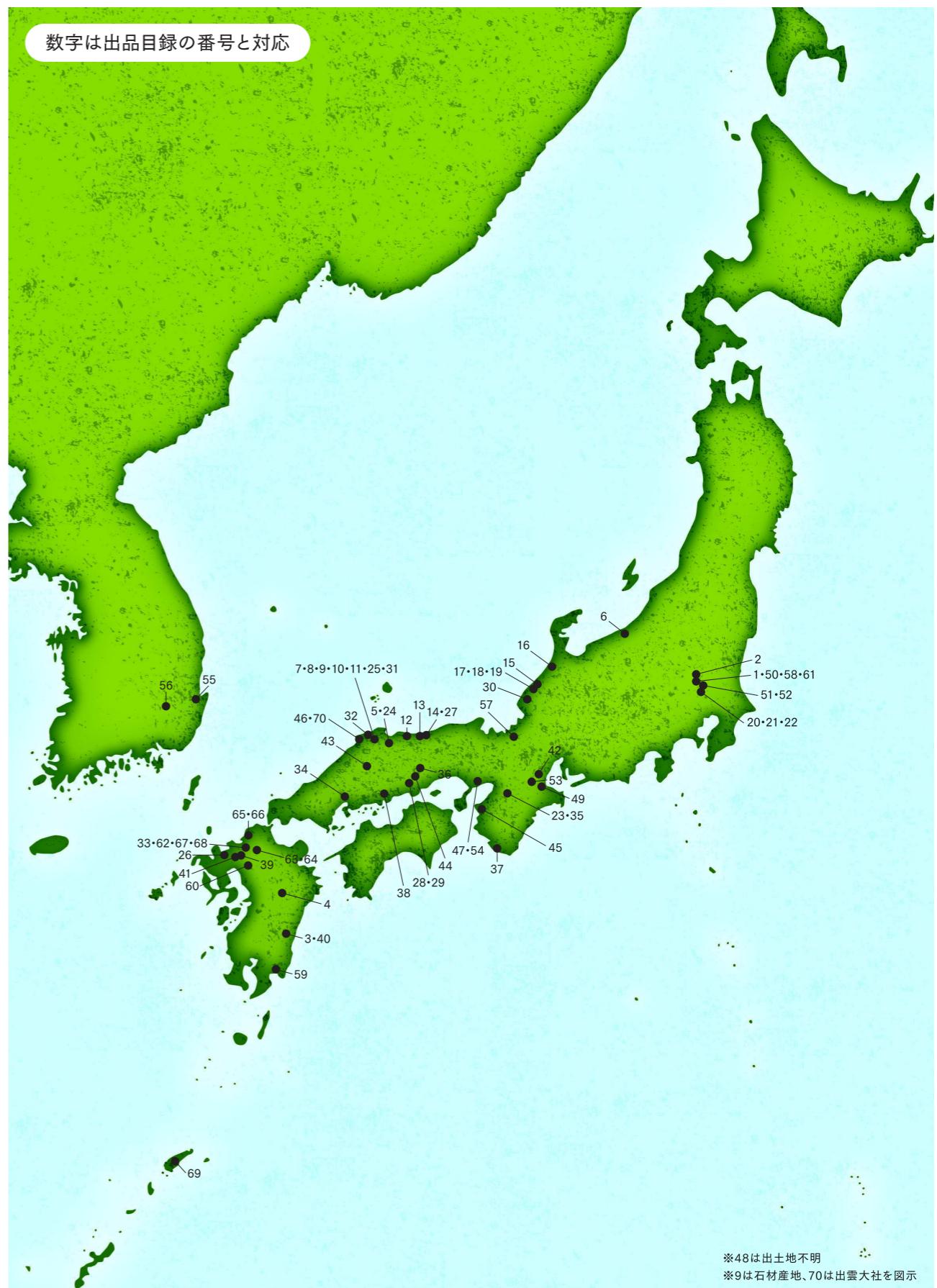
関連年表

西暦	時代	日本列島での主な出来事(玉類と関連遺跡)	朝鮮半島 (玉類と関連遺跡)	西暦	時代	日本列島での主な出来事(玉類と関連遺跡)	朝鮮半島 (玉類と関連遺跡)
BC200	弥生前期	稻作農耕が伝わる (北部九州・山陰での朝鮮半島系碧玉製管玉の流通) (山陰での軟質緑色凝灰岩製管玉生産の開始)	青銅器時代 (天河石製・碧玉製玉類の流通)	400	古墳中期	百舌鳥・古市古墳群で巨大古墳の造営はじまる [4世紀末~5世紀初頭] (古墳へのヒスイ製勾玉の副葬減少、山陰系碧玉製・メノウ製勾玉、滑石製勾玉の副葬増加)	倭、新羅に侵入するが高句麗に撃退される [391~404]
		福岡県・大木遺跡	初期鉄器時代 忠清南道・松菊里遺跡			倭の五王が南朝に遣使 (古墳への金属製空玉、装飾付ガラス玉の副葬開始)	高句麗、広開土王碑建立 [414]
	弥生中期	金属器・ガラス加工の開始 (北陸(菩提・那谷)産碧玉製管玉の生産と流通)	漢武帝、楽浪郡を設置 [紀元前108年]			兵庫県・宮山古墳 奈良県・新沢千塚126号墳	(冠装飾のヒスイ製勾玉、雁木玉、金製空勾玉・空丸玉)
		石川県・八日市地方遺跡	原三国時代 (水晶製・メノウ製・ガラス製玉類の流通)			慶州市・皇南大塚 慶山市・林堂古墳群	慶州市・皇南大塚
	弥生後期	鉄器の本格的普及 (山陰・北陸での水晶製玉類の生産と流通) 後漢光武帝より「漢委奴國王」金印を賜る[57]	金海市・良洞里遺跡 河南省・渼沙里遺跡			奈良県・曾我遺跡 島根県・大原遺跡	慶山市・林堂古墳群
		(硬質緑色凝灰岩製管玉の流通)	公孫康、帶方郡を設置			和歌山県・車駕之古址古墳 福井県・十善の森古墳	百濟、高句麗により漢城陥落 熊津遷都[475]
	200	倭国大乱	鳥取県・青谷上寺地遺跡			和歌山県・車駕之古址古墳	和歌山県・車駕之古址古墳
		岡山県・楯築墓	公孫康、帶方郡を設置			福井県・十善の森古墳	福井県・十善の森古墳
300	古墳前期	卑弥呼、魏に遣使[239]	石川県・塚崎遺跡			横穴式石室の普及 (出雲玉作りの最盛期、以降の出雲産玉類の全国的流通)	(ヒスイ製勾玉、雁木玉)
		古墳の造営が始まる[3世紀中頃]	奈良県・桜井茶臼山古墳			島根県・堂床遺跡	公州市・武寧王陵
		(古墳へヒスイ製勾玉、碧玉製管玉、ガラス製小玉の組み合わせでの副葬開始)	奈良県・桜井茶臼山古墳			(畿内中枢における金属・ガラス製玉類の盛行、玉の材質・器種・組み合わせの多様化)	金官加耶、滅亡[532]
		(緑色凝灰岩製腕輪形石製品の生産と流通)	奈良県・桜井茶臼山古墳			三重県・東条1号墳 宮崎県・錢亀塚	百濟、泗沘遷都[538]
		石川県・片山津玉造遺跡 広島県・石鎚山第1号古墳	奈良県・桜井茶臼山古墳			仏教が伝来[538] (九州の古墳での多角形ガラス玉、赤メノウ製玉類、天河石製玉類などの渡来系玉類の副葬が盛んになる)	大加耶、新羅に併合し 加耶諸国、滅亡[562]
		(碧玉・メノウ・水晶製勾玉、滑石製玉類の生産と流通)	奈良県・桜井茶臼山古墳			佐賀県・都谷遺跡ST014号墳 福岡県・牛頸中通6号墳	金官加耶、滅亡[532]
		島根県・史跡出雲玉作跡 奈良県・新沢千塚500号墳	奈良県・桜井茶臼山古墳			(畿内の石製玉類の副葬が減少)	百濟、泗沘遷都[538]
		(関東での滑石製・緑色凝灰岩製玉類、メノウ・水晶製勾玉の生産)	奈良県・桜井茶臼山古墳			奈良県・藤ノ木古墳	大加耶、新羅に併合し 加耶諸国、滅亡[562]
		埼玉県・反町遺跡、前原遺跡、正直遺跡	奈良県・桜井茶臼山古墳			飛鳥寺が建てられる[596] 前方後円墳築造停止	百濟、滅亡[660]
						(古墳への渡来系玉類の副葬がほぼ終息する)	白村江の戦い[663]
400	古墳後期					大化の改新[乙巳の変:645] (出雲玉作りの終焉)	高句麗、滅亡[668]
						藤原宮遷都[694] 古墳築造停止	新羅、朝鮮半島を統一[676]
						(東北における出雲産玉類の大量消費)	
						平城京遷都[710] (鎮壇具・仏像装飾としての玉の使用)	
500	飛鳥					(出雲玉作りの再開)	
						東大寺大仏開眼[752]	
600	奈良						

特集展示「玉—古代を彩る至宝—」

出品目録と遺跡地図

章	番号	指定	名称	時代(世紀)	所蔵者
序章 玉の魅力	1		猪俣南2号墳 女子形埴輪	古墳時代後期 6世紀	埼玉・美里町教育委員会
	2		せきね古墳 女子形埴輪	古墳時代後期 6世紀	埼玉・本庄市教育委員会
	3		西都原111号墳 玉類	古墳時代中期 5世紀	宮崎県立西都原考古博物館
	4		吾平原北6号横穴墓 玉類	古墳時代後期 6世紀	宮崎・高千穂町教育委員会
第1章 玉作りの技術	5		大原遺跡 2号工房復元模型	原遺構:古墳時代中期 5世紀	島根県埋蔵文化財調査センター
	6		糸魚川産ヒスイ原石	現代 21世紀	九州国立博物館
	7		出雲産碧玉原石	現代 21世紀	島根・株式会社めのや
	8		出雲産碧玉製勾玉	現代 21世紀	島根県教育委員会
	9		碧玉製勾玉・管玉の製作途中品(復元品)	現代 20世紀	東京・國學院大學博物館
	10		出雲産メノウ原石	現代 21世紀	島根・株式会社めのや
	11		出雲産メノウ製勾玉	現代 21世紀	島根県教育委員会
	12		笠見第3遺跡 玉作り関連資料・土器	弥生時代 紀元前2世紀-紀元後1世紀	鳥取県埋蔵文化財センター
	13		青谷上寺地遺跡 玉作り関連資料	弥生時代 紀元前2世紀-紀元後1世紀	鳥取県埋蔵文化財センター
	14		松原田中遺跡 玉作り関連資料	弥生時代 2-3世紀	鳥取県埋蔵文化財センター
	15		八日市地方遺跡 北陸産碧玉原石	弥生時代 紀元前2世紀-紀元後1世紀	石川・小松市埋蔵文化財センター
	16		塚崎遺跡 北陸産碧玉原石	弥生時代 2-3世紀	石川県埋蔵文化財センター
	17		片山津玉造遺跡 玉作り関連資料	古墳時代前期 3-4世紀	石川・小松市立博物館
	18		片山津玉造遺跡 玉作り関連資料	古墳時代前期 3-4世紀	石川・加賀市教育委員会
	19		片山津城山遺跡 碧玉製品関連資料	古墳時代前期 3-4世紀	石川・小松市立博物館
	20		高坂8号墳 玉類	古墳時代前期 4世紀	埼玉・東松山市教育委員会
	21		反町遺跡 玉作り関連資料	古墳時代前期 4世紀	埼玉県教育委員会
	22		正直遺跡 玉作り関連資料	古墳時代前期 4世紀	埼玉県立さきたま史跡の博物館
	23		曾我遺跡 玉作り関連資料	古墳時代中期 5世紀	奈良県立橿原考古学研究所
	24		大原遺跡 玉作り関連資料	古墳時代中期 5世紀	島根県埋蔵文化財調査センター
	25		面白谷遺跡 玉作り関連資料	古墳時代後期 6世紀	島根県埋蔵文化財調査センター
第2章 玉飾りの世界	26	佐賀県重要文化財	宇木汲田遺跡 ヒスイ製勾玉・垂飾	弥生時代 紀元前2世紀-紀元後1世紀	佐賀県立博物館
	27		松原1号墓第2主体部 ガラス製玉類・出土状況レプリカ	弥生時代 2-3世紀	鳥取市教育委員会
	28		楯築墳丘墓 玉類・人形土製品	弥生時代 2-3世紀	岡山大学考古学研究室
	29		楯築墳丘墓 (旋帯文石複製品)	原品:弥生時代 原品:2-3世紀	岡山県立博物館
	30		太田山遺跡2号方形周溝墓 玉類	弥生時代 3世紀	福井県埋蔵文化財調査センター
	31	島根県指定文化財	上野1号墳 玉類	古墳時代前期 4世紀	島根県埋蔵文化財調査センター
	32		奥才34号墳 碧玉製勾玉	古墳時代前期 4世紀	島根・松江市教育委員会
	33		老司古墳 玉類	古墳時代中期 4世紀	福岡市埋蔵文化財センター
	34		神宮山1号古墳 玉類	古墳時代前期 4世紀	広島大学大学院文学研究科考古学研究室
	35		新沢千塚500号墳 玉類・石製品	古墳時代前期 4世紀	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
	36	岡山県重要文化財	月の輪古墳 玉類・碧玉製腕飾	古墳時代中期 5世紀	岡山・美咲町教育委員会
	37	和歌山県指定文化財	上ミ山古墳 玉類	古墳時代後期 6世紀	和歌山・すさみ町
	38		亀山第1号古墳 玉類	古墳時代中期 5世紀	広島県教育委員会
	39		都谷遺跡ST014号墳 玉類	古墳時代後期 6世紀	佐賀県教育委員会
	40		西都原4号地下式横穴墓 管類・銅鏡	古墳時代中期 5世紀	宮崎県立西都原考古博物館
	41	佐賀県重要文化財(一部除く)	花納丸古墳 銅鏡・三環鈴・管玉・砥石・古墳記	古墳時代中期 5世紀	佐賀県立博物館
	42		井田川茶臼山古墳 玉類	古墳時代後期 6世紀	三重県埋蔵文化財センター
	43		金田第2号古墳 玉類	古墳時代後期 6世紀	広島県教育委員会
	44		岩田古墳群 玉類	古墳時代後期 6世紀	岡山・赤磐市教育委員会
	45	和歌山県指定文化財	車駕之古跡 古墳 金製勾玉	古墳時代中期 5世紀	和歌山市教育委員会
	46		出雲大社境内遺跡 玉類・土器	古墳時代前期 4世紀	島根・出雲大社
	47		住吉東古墳 滑石製双孔円板・白玉	古墳時代中期 5世紀	兵庫・神戸市教育委員会
	48		子持勾玉	古墳時代後期 6世紀	九州国立博物館
	49	三重県指定文化財	常光坊谷4号墳 女子形埴輪	古墳時代中期 5世紀	三重・松阪市教育委員会
	50		伝生野山古墳群 女子形埴輪	古墳時代後期 6世紀	埼玉県立さきたま史跡の博物館
	51		伝埼玉古墳群 武人形埴輪	古墳時代後期 6世紀	埼玉・行田市教育委員会
	52		伝埼玉古墳群 女子形埴輪	古墳時代後期 6世紀	埼玉・行田市教育委員会
	53	三重県指定文化財	東条1号墳 玉類	古墳時代後期 6世紀	三重県埋蔵文化財センター
	54		下大谷1号墳 玉類	古墳時代後期 6世紀	兵庫県立考古博物館
第3章 海を渡る玉	55		大韓民国慶州金冠塚古墳 金冠(複製品)	原品:三国時代(新羅) 5世紀	東京・國學院大學博物館
	56		伝大韓民国大邱廣域市内 金冠	原品:三国時代(新羅) 6世紀	九州国立博物館
	57	福井県指定文化財(一部除く)	十善の森古墳 銀製空玉・玉類・金冠(複製品)	古墳時代後期 6世紀	福井県立若狭歴史博物館・若狭町歴史文化館
	58		白石古墳群第18号古墳 玉類	古墳時代後期 6世紀	埼玉・美里町教育委員会
	59		銭龟塚 雁木玉	古墳時代後期 6世紀	宮崎県立西都原考古博物館
	60		乗場古墳 雁木玉	古墳時代後期 6世紀	東京国立博物館
	61		白石古墳群久保第1号古墳 重層三連玉	古墳時代後期 6世紀	埼玉・美里町教育委員会
	62		古野A1号墳 天河石製丸玉	古墳時代後期 6世紀	福岡・九州歴史資料館
	63		天園2号墳 重層ガラス玉	古墳時代終末期 7世紀	福岡・九州歴史資料館
	64		山田1号墳 重層ガラス玉	古墳時代後期 6世紀	福岡・九州歴史資料館
	65		大井三倉第2号墳 方形ガラス玉	古墳時代後期 6世紀	福岡・宗像市教育委員会
	66		大井三倉第3号墳 多角形ガラス玉	古墳時代後期 6世紀	福岡・宗像市教育委員会
	67		観音山古墳群平石II群 赤メノウ製丸玉	古墳時代後期 6世紀	福岡・九州歴史資料館
	68		牛頭中通り6号墳 赤メノウ製扁平切子玉	古墳時代後期 6世紀	福岡・大野城市教育委員会
	69		玉ハビル(頭飾り)	第二尚氏時代 19世紀	東京国立博物館
	70	終章 玉のゆくえ	美保岐玉 昭和23年献上品の控え	現代 20世紀	島根・株式会社めのや



【表紙】上から順に、車駕之古跡 古墳 金製勾玉(和歌山市教育委員会)/伝生野山古墳群 女子形埴輪(埼玉県立さきたま史跡の博物館)/出雲大社境内遺跡 玉類(島根・出雲大社)/宇木汲田遺跡 ヒスイ製勾玉(佐賀県立博物館)/銭龟塚 雁木玉(宮崎県立西都原考古博物館)/上野1号墳 メノウ製勾玉(島根県埋蔵文化財調査センター)
※48は出土地不明
※9は石材產地、70は出雲大社を図示

【裏表紙】美保岐玉 昭和23年献上品の控え(島根・株式会社めのや)